

幼児保護者の皆様へ

幼児算数活動の勉強会のご案内

『親子で遊ぶ5までの算数世界』

平成29年4月

NPO法人幼児算数教育研究所理事長 植村憲治

長く咲いていた今年の桜の枝の花びらも、若葉がとって換わっている最中ですが、皆様元気にお過ごしのことと存じます。

ところで、小学校での学習に備えて、幼児を持つご家庭では、入学前まで、どのような準備をしておけば良いのでしょうか。私たち幼児算数教育研究所では、小学校での算数教育を視野に入れた親子で楽しく遊ぶ活動を皆様にご紹介し、それを皆様と一緒に発展させていく勉強会を企画しました。幼児が親と楽しく触れ合いながら、論理的思考を鍛え、小学校での算数授業を容易に理解出来る能力を身につける内容となっています。ご家庭にあるものを利用した教具と、5以下の数を用いて楽しく遊びます。

これらの遊びは、私が大学在職時を含めて8年間にわたって山梨県都留市内の1保育所で続けてきました「幼児の算数活動プログラム」から得られた成果に基づいています。保育所では、担任が個々の園児に問いかけたり、一緒に遊んだりしました。一所懸命考え、正しかったときの嬉しそうな幼児の一人一人の顔が印象に残っています。このような感動を保護者の皆様にも体験して頂きたく、この会を開催することにしました。

保育所での活動に興味を持って下さった山梨日日新聞では、昨年11月から月2回、「5までの数で遊ぼう」という題名の私の署名入り記事を連載しています。内容は私が保育所で実施してきた幼児の活動に基づく親子の遊びの紹介で、ご家庭で活用できるものです。

チラシに掲載した記事は、葉っぱが木の枝から地面に落ちる場面と、地面に落ちている葉っぱが風で飛ばされる場面を、大人が「葉っぱが1枚木から落ちました」、「風が吹いて来て、葉っぱが1枚地面から飛んでいきました」という台詞に合わせて幼児が枯れ葉を移動していくもので、足し算と引き算の混合算の基になっています。そして年長児の後半になると、絵で操作せずに、大人の言葉を聞くだけで最後に何枚の葉っぱが地面に落ちているかを答えることが出来るようになります。

勉強会では、新聞で紹介されたこれらの遊びについて、参加者全員で議論を進めて行きたいと思います。ご家庭で実際に幼児と遊ばれた報告もしていただいで議論を深めていくつもりです。そして、遊び自体の改善や発展を考えて参ります。月1回で6ヶ月を予定していますが、毎回の参加を前提とはしていません。

数を多く覚える、10までの数詞が書ける、1桁の簡単な足し算・引き算が出来るという、先取り教育ではなくて、それ以前の算数の思考につながる多くの遊びを、幼児に体験させるという活動を世の中に広げたいと考えています。裏面に遊びの内容を記しました。

勉強会で紹介する遊びの内容

第1回 3歳児 真似っこ遊び。 大人が打楽器を叩いた回数（1～3回）だけ幼児も叩く。

4～5歳児 何個と何番目。 積み木を5個並べておき、大人が打楽器1を叩いた回数個の積み木を左から幼児が横へ移動する。大人が打楽器2を叩いたときは叩いた回数目の積み木1個を幼児が手元に移動する。

第2回 3歳児 指さし遊び。 猫、バナナ、リンゴ、車などが、1個から4個描かれている絵を見せ、品物を指定してそれらの絵を指ささせる。

4～5歳児 積み上げ 積んだ積み木に、さらに加えたり、取り除いたりして、大人が伝えた個数になるように積み木を積む。

第3回 3歳児 拍数による量の比較。 仕切りを間に置いて幼児からは見えないようにした2枚の皿に、1～3個の異なる個数のあめを載せ、各皿の上であめの数だけ手を叩く。多くの飴の載っている方の皿を幼児に当てさせ、幼児に仕切りを取らせて確認させる。

4～5歳児 合併の概念 幼児の右手側と左手側に5個ずつ積み木を置き、「右からいくつ、左からいくつ」と大人が告げた個数だけ積み木を取ってくる。そしてそれらを真ん中において全部を積み上げる。

第4回 3歳児 同じの概念 「積み木を1個積みます、また1個積みます」などと云いながら大人と幼児が別々に積み木を積んでいく。5個くらいまで積んで終わりにし、二人が積んだ積み木を、隣り合わせにして同じ高さであることを確認する。

4～5歳児 束とバラの概念 たくさんの積み木を4個または5個ずつ積んで、束の個数から量を比較する。バラが残る場合も考える。

第5回 3歳児 対応の概念 中皿に用意したお菓子を、銘々皿を取ってきてそれに1個ずつ載せる。

4～5歳 合併と対応 数枚の中皿にそれぞれ1種類の食べ物を載せておき、大人の指示するものを、銘々皿に載せる。例：「リンゴ2個とケーキ1個」という指示に対し、銘々皿を3枚取ってきて、それに品物を載せる。

第6回 3～4歳児 量の増減（チラシのカット参照） 枯れ葉を数枚、大人の指示に従って、絵の中で木から落としたり、地面から飛ばしたりする。

5歳児 量の増減 絵を用いず、大人の言葉のみを聞いて地面に残っている落ち葉の枚数を幼児が答える。

内容は、変更になる場合もあります。